

各務原市 八木山自然の会

里山林整備事業

美しい里山、次代に残す



「里山を適切に管理し自然に親しむ気持ちを子どもたちに伝えていきたい」と語る佐藤玄作会長=各務原市つつじが丘、八木山小学校

各務原市北東部の住宅団地の背後に広がる八木山(標高296メートル)と愛宕山(同269メートル)の環境保全と登山道整備に取り組む住民ボランティア団体「八木山自然の会」。佐藤玄作会長(72)「同市つつじが丘」は「住民の健康と心の潤いの場所としての里山を安全に美しく管理し、次の世代に残していきたい」と活動に励み、こうした身近な里山の維持にも県の「清流の国ぎふ森林・環境税」は生かされている。

同会は2003年、山の自然を維持管理するための住民ボランティア団体として発足。現在の会員は60〜80代の男女39人。活動は月に2回ほどで、登山道をパトロールして枝打ちや倒木の処理、案内板の設置、植樹、清掃活動などを行う。

児童と共に活動

同市つつじが丘の八木山小学校では、児童の古里への愛着を高めようと、春と秋に全児童を縦割りの2グループに分け、八木山と愛宕山に交互に登っており、会員が事前に安全点検し登山当日の児童のサポートも行う。

また、同校で行う自然観察などの総合学習「やぎやまタイム」にも協力し、山に入って児童に木の名前や野鳥について教える。10年ほど前から、山で松枯れやナラ枯れが目立ってきており、山で拾ったドングリから苗を育てて植樹し、山の再生を目指す活動も児童と進めている。

同事業は、5カ年で約800万円をかけ、八木山と愛宕山のふもとの森林約20ヘクタールを整備するもの。会員と市職員、業者が現地調査をした上で、除去する不要な木を決めて進めてきた。最終年となった12年度は、県の「清流の国ぎふ森林・環境税」のメニューにある、森林の多面的機能の回復を目指す「里山林整備事業」に採用され、事業



森林整備に向け各務原市の職員らと現地調査をする八木山自然の会の会員=2008年7月、各務原市の八木山

託を受けた業者による育成天然林整備事業が始まった。

使つて倒木の除去や間伐、下草刈りをする必要性に迫られ、2008年度から市の委託を受けた業者による育成天然林整備事業が始まった。

住民一丸で守る

市農政課では「林業だけでなく、地域の身近な里山の維持にも県の環境税は活用されること、市民に実感してもらえた」と成果を強調する。

佐藤会長は「うっそうとしていた森は、日光が入りやすくなり、明るく生まれ変わった。美しくなった山を住民一丸で守っていききたい」と、今後の活動に向けて「層力をみなぎらせている」。

清流の国ぎふ森林・環境税を活用した事業の紹介【2】 里山林整備事業

～里山林の整備・利用の促進～

野生鳥獣被害の軽減など地域住民の生活環境の向上や生物多様性の保全を図るため、里山林の整備を進めています。

- 《整備内容》
- 侵入竹の除去
  - 森林病虫害の防除
  - 広葉樹の植栽
  - 修景等の整備
  - 不用木の除去
  - 既存施設の改修 等

(実施主体) 市町村、各種団体等  
 整備計画面積(H24～H28)/2,000ヘクタール  
 H24整備実績面積/281ヘクタール(17市町村) H25整備計画面積/400ヘクタール(26市町村)

事業の詳細は、県農林事務所又は市町村へお尋ねください。「里山林の整備・利用の促進」では、この他、県実施による環境保全モデル林の選定、整備に取り組んでいます。

修景整備



不用木除去

